

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	<p>⑩【県内外や海外の人々とのつながり】                      苦しみや悲しみに包まれている人々を支援している人に感謝し、共に協力することの大切さを実感する。</p>	総合的な学習の時間
<p><b>【題材】</b>                      沿岸部の学校と内陸部の学校との合唱を通じた交流を通して、人と人とのつながりとその大切さを実感し、これからの交流をどうするか、交流から学んだことをどう活かすかについて考える。</p> <p><b>【対象】</b>                      陸前高田市立第一中学校 特設合唱部 67名                      矢巾町立矢巾北中学校 特設合唱部 60名</p> <p><b>【実践の概要】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>被災地を訪問し、被災と復興の現実を生徒に感じ取らせる。</li> <li>沿岸部の学校の生徒と交流を行い、共に協力することの大切さを実感する。</li> <li>合唱というお互いの文化を通じた交流を行い、他校の良さについて学ぶとともに、自分たちのこれからの活動について考える。</li> </ol> <p><b>【実践の詳細】</b>                      期 日：平成26年7月27日                      訪問先：陸前高田市立第一中学校                      内 容：合唱交流                      活動の様子：                      体育館に入ると、高田・第一中の生徒が拍手で迎えてくれました。お互いの学校について紹介した後に、男女分かれての合唱交流を行いました。                      女声は両校生が交互に並び、普段行っている練習方法を生徒同士で実践しあいました。より遠くへ声をとばすため必要なコツを意識し、NHKコンクールの課題曲である「桜の季節」を一緒に合唱しました。                      男声の練習は腹式呼吸による発声、裏声の出し方や、気持ちを解放し体全体で声を出す練習をしました。また、男声のみでいくつかのパートに分かれて、短いフレーズを歌い、男声だけでも美しいハーモニーを奏でることができました。                      両校が再度集まり、それぞれが今まで練習してきた合唱を披露し、最後に「ふるさと」を全員で合唱しました。                      高田・第一中の生徒からは、「発声などの基礎をしっかりと練習していて、歌詞の一つひとつの歌い方も参考になった」「表情や口の形、呼吸の仕方が出る声も違うと分かったので、意識して歌いたい」という感想をいただきました。合唱で学校を盛り上げようとする気持ちが強く、交流の際にも一人一人の意欲の高さがよく分かりました。</p>		



オリエンテーション



女子の合同練習



男子の合同練習



合同で「ふるさと」を合唱

「陸前高田市を訪ねて」  
今年、私達は陸前高田市立第一中学校特設合唱部の皆さんと交流しました。陸前高田市は震災当時に比べ、復興は進んでいるということでしたが、本当の陸前高田になるには、まだまだ時間がかかりそうだと思います。交流会では、お互いの活動内容の交換や合唱交流をしました。一中の皆さんは、活動では真剣に、休憩時にはフレンドリーに対応してくれて、本当に充実した心温まる時間を過ごすことができました。

特に合唱練習では「ここはフォルテなので頑張りましたよ。」などと声をかけあいながら練習をしました。声をかけ合うことで、お互いを理解し、それぞれの良い所を吸収して成長することができたのではないかと思います。そして一中生が曲発表で歌った「桜の季節」。一つ一つの言葉に心が込められて、一生懸命歌う姿に勇気をもらいました。

今回、実際に被災地を見て、改めて大震災が残した爪痕の大きさを感じました。そして、その中で生き続ける同じ中学生に対し、頭が下がる思いがしました。彼らと交流することで、自分達のおかれた環境に感謝し、できることをやり遂げることが復興支援につながるという思いを新たにしました。